

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第112回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第112回目は1本のストラップを加えることでカバン業界に新たなスタイルを提案する株式会社COAROO(武蔵野市)をご紹介します。特許取得の相談をきっかけに、ワンストップ相談窓口やニューマーケット開拓支援事業、公社展示会「ライフサポートフェア」への出展など様々な支援事業を効果的に活用しています。

「使いやすさ」と「シンプルさ」をつなぐ1本のベルト

株式会社COAROO

子育て経験と日本文化から生まれたバッグ

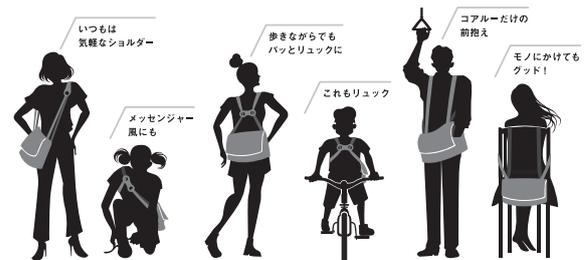
韓国出身の池成姫(チー・ソンヒー)社長は、学生時代、日本語を学んだことをきっかけに、日本の大学へ進学した。結婚後も日本で暮らす中で、さらにその伝統文化に興味を持った。結び方ひとつで様々なものを持ち運ぶことのできる風呂敷、おんぶひもやたすき掛けといった生活に根差した日本の知恵。それらの持つ一見単純そうだが、洗練された技術、不要なものをそぎ落としたシンプルさに惹かれた。

池社長は子育てする中で、自分の持つカバンが子供を抱き上げるときに邪魔になったり、すぐに荷物を取り出しにくいなど不便を感じていた。「両手が空くりュックや肩掛けのショルダーバッグなど、場面によって背負い方を変えられるバッグがあればいいのに。」必要に応じてスタイルを変えられる便利さと子育て経験から感じた不便さを解消するための工夫を製品に落とし込んだことで生まれたのが「コアルーバッグ」だった。

コアルーバッグはバッグに2本のベルトをループ状に取り付け、さらにそのベルトを専用のパッド「コアルーパッド」でつないでいる。コアルーパッドに空いている2つの穴に通されたベルトが自在に滑ることによってショルダーバッグ・リュックサック・前抱えなど、5種類の持ち方に変えることができる。鞆を一度おろして別の金具に付け替えるような煩わしい作業はなく、一瞬で背負い方を変えることができる。

シンプルな構造で無駄がないその仕組みは、「洗練されたシンプルさ」という池社長の美意識に合うものだった。バッグの中心(Core)にあるパッドでコアラ(Koala)のように背負うことも、カンガルー(Kangaroo)のように前に下げることでもできるバッグとして「コアルー(coaroo)バッグ」と名付けられた。

ショルダーから、リュック、前抱えまで、
いつでも簡単にバッグが変わる。



かけ方いろいろ、コアルーバッグ。

起業の海へ泳ぎだす

かつて、夫を手伝い特許翻訳を行っていた経験から、池社長はコアルーバッグは特許を取得しやすいと直感した。そして、その特許を活用してビジネスを立ち上げる夢を抱いた。池社長は、株式会社COAROO(以下同社)起業という海へ漕ぎ出した。

しかし、良い製品を開発したからと言って会社経営がすぐに軌道に乗るわけではない。起業した直後、東日本大震災が発生。甚大な被害のみならず度重なる余震と原発事故を伴い、日本全体が不安に包まれていた。国内消費も低迷し、経済も自粛モードになった。同社の経営は暗礁に乗り上げ、「ビジネススタイル、商品、日本の状態、そのどれが原因で経営がうまくいかないのか、それすらわからない状態だった。」と当時を振り返る。ただ、『コアルーバッグはたくさんの人に必ず役立つ商品になる』という確信をもって、絶えず前向きに行動し続けていたという。池社長が少しでもアクションを起こすことで生じた反応を見逃さず、次の仕事に生かすことで新しい反応が生まれていく。その繰り返しで少しずつ経営は前向きになってきた。

起業の壁はほかにもあった。コアルーバッグは“誰にでも使いやすい”をコンセプトに作られたが、製品化の際、誰のための、どのような場所で売るバッグかという事を検討できていなかった。すなわち、マーケティングとブランディングであり、消費者がその商品を使った様子が具体的にイメージできるよう、方向性を提案する事でもある。池社長はある大手通販会社のバイヤーとの出会いによって、マーケティングやブランディングの重要性について気づかされたという。そのバイヤーは、コアルーバッグの特性は育児の様々な場面に柔軟に対応できることと考え、育児用バッグという形で提案をした。

この育児バッグの成功を機に、同社は、すでに市場を持っている会社とライセンス契約を結び、コアルーパッドの特許を活用した製品を製造・販売してもらうというライセンスビジネスを確立した。コアルーバッグの機能はそのままに、より

ファッション性の高いものからシンプルで実用性のあるものまで、現在は多彩な製品が生まれている。



大手百貨店で企画展示を行い、販売している

公社の支援が広げる、新たな可能性

池社長はより多くの場面でコアルーパッドを活用してもらうために、公社の事業を積極的に利用した。一人では実現できなかったことが可能になった。その一つが、公社の「産学連携デザインイノベーション事業」(注1)である。事業の中で武蔵野美術大学の学生達に「おしゃれなバッグを作るのではなく、コアルーパッドが作る5つの背負い方を生かした、新たな用途に使えるものを作ってほしい」と要望したところ、学生たちが知恵を出し合い、斬新なアイデアがたくさん集まったという。

そのほかにも、起業に関する疑問や困難をワンストップ相談窓口で解決したり、国際化支援室へは海外進出の際に相談に訪れ、訴訟時の対応や契約書の内容についてアドバイスが得られたという。

ニューマーケット開拓支援事業(注2)ではビジネスナビゲータを通じ、新たな販売ルートの紹介も得られた。さらに、公社主催の展示商談会『ライフサポートフェア』への3回の出展でコアルーバッグの機能性を実演で伝え、販

路開拓につなげることができた。

池社長は公社の支援事業について「中小企業のどの経営段階においても、たくさんの支援メニューが準備されており、使い切れない位です」と話してくれた。「私自身が起業を考えていたときに公社に出会い、より積極的に公社の支援制度を利用していただろうと思うことがあった。今後も多くの起業者の助けになるよう、ベンチャー企業へも公社の存在をPRしてほしい」と励ましの言葉をいただいた。



コアルーバッグの仕組みを解説して下さる池社長

夢は多彩なバッグの並ぶ直営店

今後の展望について尋ねると、コアルーバッグを商品名やブランド名ではなく、バッグのジャンルとして確立させたいと語る池社長。その具体的な目標として「コアルー社は今まで店舗を持ったことがないので、3年以内に吉祥寺に初の直営店を出したい」と話してくれた。

ただ、直営店出店には、ライセンス商品に負けない、魅力ある自社ブランド製品作りも不可欠であり、その過程で新たな課題を乗り越えなければならないとの覚悟もある。将来について嬉しそうに語る池社長は、大海原を生き生きと泳ぐ魚のようだった。

(企画課 堀内優香)

(注1)産学連携デザインイノベーション事業…

中小企業の製品の付加価値化を促進するために、自社製品を開発する意欲を持った中小企業とデザイン系大学の学生をマッチングし、共同プロジェクトとして新たな製品開発を行う。

(注2)ニューマーケット開拓支援事業…

都内中小企業の優れた開発製品・技術に対して、ビジネスナビゲータがそのノウハウや企業ネットワークを生かし、国内の販路開拓支援やマーケティング戦略策定支援を行う。

企業名：株式会社COAROO

代表者：池 成姫 (チー・ソンヒー)

資本金：300万円 従業員数：1名

本社所在地：東京都武蔵野市吉祥寺本町2-34-12-301

TEL：0422-27-6328 FAX：0422-27-6329

URL：http://www.coaroo.co.jp